

企画展

輸送船
「金華丸」に乗船



金華丸上で負傷
(船首から海に飛び込む直前の上田さん)



病院船「橘丸」で搬送

— 海洋船舶画家上田毅八郎のあゆみ —

描いて がむしやらに



SHOKEI-KAN
しょうけい館
戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers.

平成24(2012)年

3.21(水) ▶ 5.20(日)

会場 しょうけい館1階

開館時間 10:00 - 17:30 (入館は17:00まで)

休館日 毎週月曜日(祝日は開館)、5/1(火)

入館無料

企画展

がむしやらにて 描いて

— 海洋船舶画家上田毅八郎のあゆみ —

上田毅八郎(大正9(1920)年〜)さんは、戦争中、陸軍の船舶砲兵として6回もの船の沈没に遭遇するなど苛酷な体験をしました。昭和19(1944)年11月、輸送船「金華丸」に乗船中、マニラ港で3日間に渡り敵機の攻撃を受け、一命を取り留めたものの、利き腕の右腕と右足を負傷しました。その後、右手が動かなくなっただけでなく、左手で字が書けるよう訓練に励み、帰郷後、家業の塗装業を継ぎました。仕事のかたわら、もともと好きな軍艦の絵を描いていたところ、その絵がプラモデルの箱絵に使われたことをきっかけに、画家としての道を歩むことになりました。これまで数多くの作品を制作してきましたが、中でも軍艦などのプラモデルの箱絵は現在も多くの人々に親しまれています。

本展では、海洋船舶画家として知られる上田さんの画業の原点となった戦争での負傷体験、とりわけ上田さん自身が船舶砲兵として乗船した数々の輸送船や、上田さんが遭遇した海戦などを描いた約40点の絵画により紹介します。輸送船を描くことは自らの使命だと語る上田さんが1枚1枚の絵の細部にこめた想いを、上田さん自身による絵の解説とともにご覧下さい。

また、今回初公開となる当館制作の上田さんの証言映像を上映します。上田さん自身が語る負傷体験とその後の苦労、画家としての再出発という人生の歩みをぜひあわせてご覧下さい。



「戦艦大和」(上田毅八郎画)



絵を描く上田毅八郎さん
(1963(昭和38)年)

関連イベント

1 証言映像上映会&関連トークイベント 「がむしやらに生きて、描いて」

内容：上田毅八郎さんが自らの負傷体験、戦後の画家としての出発を語る証言映像(2010年、しょうけい館制作、約20分)の上映と、上映後に関係者によるトークイベントを行います。

日時：5月5日(土) 14:00~15:00

場所：当館1階証言映像シアター

定員：先着30名(電話による事前申し込みが必要です)

*上田さんの証言映像は会期中及び会期終了後も館内でご覧頂けます。

2 学芸員による展示解説

学芸員が企画展の展示解説をします。(当日参加自由・無料)

日時：3月24日(土)、4月7日(土)、5月12日(土)の
14:00より約30分

しょうけい館&千代田図書館連携展示

「がむしやらに描いて ~海洋船舶画家上田毅八郎のあゆみ~」

入館無料

日時：平成24(2012)年2月28日(火)~5月20日(日)

月~金 10:00~22:00 土 10:00~19:00

日・祝 10:00~17:00

場所：千代田図書館展示ウォール前 ミニ展示コーナー
(千代田区役所9階)

休館日：3月25日(日)、4月22日(日)

しょうけい館

当館は、戦傷病者とそのご家族等が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、後世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族等の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。



住所 〒102-0074 東京都千代田区
九段南1-5-13 ツカスキウエア 九段下
TEL 03(3234)7821 FAX 03(3234)7826
URL www.shokeikan.go.jp

地下鉄

東西線、半蔵門線、都営新宿線
「九段下」駅6番出口から徒歩1分

都営バス

高71系統(九段下~高田馬場駅)
「九段下」停留所から徒歩1分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。

